

爰に本朝人皇百八代の帝、後陽成院の御宇に當つて、太政大臣豊臣秀吉公といふ人あり。○中略
るとき母懷中に日輪入給ふと夢み、すでにして懷妊し誕生しけるにより、童名を日吉丸といひ
しなり。

〔東照宮御實紀附錄十四〕城將塙團右衛門直之が、蜂須賀阿波守至鎮が手へ夜討せし時、至鎮が家人稻田九郎兵衛、生年十五歳にて大功ありしかば、御感狀を下され、其比近臣へ仰せ有しは、子に名をつくるも心得のあるべき事なり、九郎兵衛はわづか十五なるを、いらぬおとならしき名を付しは、さんぐの事なり、何丸とか何若とか付ば、今度の勳もわきて奇特に聞ゆべきに、をしき事なり、人々もかねて心得置べき事と仰諭されしこそ、

〔平治物語二〕常盤注進、并信西子息各被處遠流事

爰ニ左馬頭義朝ノ末子、九條院雜仕常盤ガ腹ニ三人アリ、兄ハ今若トテ七ツニナリ、中ハ乙若トテ五、末ハ牛若トテ今年生レタリ、

〔太平記二〕長嶋新左衛門尉意見事附阿新殿事

去年元年元徳ヨリ佐渡國ヘ流サレテヲハスル資朝卿野日ヲ斬奉ベシト、其國守護本間山城入道ニ被下知、此事京都ニ聞ヘケレバ、此資朝子息國光中納言其比ハ阿新殿トテ、歲十三ニテヲハシケルガ、父卿召人ニ成給シヨリ、仁和寺邊ニ隠テ、居ラレケルガ、父誅セラレ給ベキ由ヲ聞テ、今ハ何事ニカ命ヲ惜ベキ、父ト共ニ斬レテ冥途旅伴ヲモシ、又最後御有様ヲモ見奉ベシトテ、母ニ御暇ヲゾ乞レケル、

〔南留別志〕一童名に、箱王、春王、鬼王などいへる、古は三世王五世王などの姓を賜はるは、多くは元服して賜はれるなるべし、童部の時は、いまだ諸王なれば、何王と稱したるが、凡人の家にも移りたるならんと思はる、